

平成31年度 学校経営方針

新宿区立市谷小学校 校長 泉崎 直之

1 めざす学校像

生き生きのびのび 一人一人の子供が光り輝く市谷小学校

- (1) 児童がいきいきと楽しく学び活動する学校
- (2) 礼節を重んじ 挨拶が響き合う学校
- (3) 思いやりを大切にする いじめのない学校
- (4) 目標をもって工夫と改善に努める学校 (チーム市谷)
- (5) 地域に開かれ 地域と共に歩む学校

2 本校の教育目標

市谷小学校の児童としての自覚をもち、人間尊重の精神を基本とし、心身共に健康で、知性と感性、自主性と創造性に富み、勤労と責任を重んじ、環境を大切にする心と国際感覚をそなえ、社会連帯意識と国際的視野をもち、心豊かにたくましく生きる児童の育成をめざし、次の目標を定める。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ○ 明るく じょうぶな子ども | (心と体の健康、豊かな心とたくましい体) |
| ○ よく考え やりぬく子ども | (自ら考え、粘り強く努力する資質・能力) |
| ○ きまりを守り なかよくする子ども | (規範意識と社会の一員としての自覚) |
| ○ すなおで 思いやりのある子ども | (人権尊重の精神と共生) |

3 教育目標を達成するための基本方針

☆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

☆「豊かな心、健やかな体の育成」

【育てたい4つの姿勢】

- ① 真剣・集中 (主体的な学び、深い学び)
- ② 思いやりと協調性 (自他の生命尊重、人権尊重、及び対話的な学び)
- ③ あいさつ、返事、言葉遣い (礼儀・マナー)
- ④ 時間・ルール守る (規範意識)

(1) **学力・体力の向上** (思考力、判断力、表現力と、健やかな体の育成)

- ・主体的に物事にに関わり、「**真剣**に取り組む姿勢」「**集中**してやり抜く態度」の育成
- ・「集中して聞く力」「わかりやすく (明快に) 話す力」の育成
- ・自分の頭で考え、自分の言葉で表現することができる子の育成
- ・わかるまで、できるまで工夫し、努力する子の育成 (あきらめず最後まで努力する)
- ・自ら「問い? (はてな、なぜ、どうして)」をもち、追究する子の育成
- ・進んで体を動かす子、体力・健康の維持、向上に努める子の育成

(2) **心の教育の推進** (人との関わり、礼儀、規範意識、感じる心を大切に)

- ・「あいさつ」「**返事** (「はい)」「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子の育成
- ・相手の「目を見て話を聞く」、「**言葉遣い**に気を付けて話す」ことができる子の育成
- ・進んで人と関わり合い、**思いやり**の気持ちをもって対話や助け合いのできる子の育成
- ・節度をもち、**時間・ルールを守る**子の育成 (規範意識、「ならぬものはならぬ!」)
- ・美しいもの、素晴らしいことに感動できる子の育成 (感じる心、豊かな心を育てる)

(3) 『**チーム (市谷)**』で**連携・協力** (学級、学年、学校全体で工夫・改善に努める)

- ・チーム (学級、学年、学校全体) で**連携・協力**して、工夫・改善、目標達成に向けて努力する。
- ・学習や行事、様々な活動に向けて、目標をもってチャレンジする。
- ・常に仲間やまわりの人のことを考えて行動する。(思いやりと協調性)

(One for all, all for one.⇒「一人はみんなのために、みんなは一人のために」)

(4) **指導体制・危機管理体制の確立** (児童の命と安全を守る体制を整える)

- ・学年、担当、学校全体での、必要情報や指導方針の共通理解と統一
- ・事故発生時、緊急時の初動対処 (けがの手当て、事故の拡大防止、連絡)
- ・個人情報の厳正な管理 (児童の個人情報の厳正・適格な取扱い)
- ・「施設・設備の管理」「指導方法・指導内容の管理」「教室の規範・秩序の管理」

(5) **保護者・地域・関係機関との連携**

- ・一人一人の児童に応じた対応 (支援体制、校内委員会、ケース会議の充実)
- ・保護者・地域の人材を活かした教育活動の推進
- ・保護者・地域の声や評価を活かした教育活動の推進
- ・教育活動の積極的な情報発信
- ・『チーム市谷』として、外部の人材を活用して課題の解決や改善を図る